

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

清水谷高校のミッション

本校は1900年創立の歴史と伝統を受け継ぎ、「愛と恕」の精神の下、個性と多様性を尊び、共生社会で使命を果たして幸せな人生を歩むための教育を行う。

めざす学校

生徒が本校で充実した学校生活を過ごす中で、明るい将来の展望を持ち、自他の個性を尊び、将来果たすべき使命を意識して、幸せな人生を歩めるように

1. かけがえのない存在として自分の能力を信じて、伸びしろに期待した高い目標に挑戦し、失敗して学び、達成で成長の喜びを実感する学校
2. 志や使命感を持ち、他者への感謝と思いやりを忘れず、礼儀を弁えて、自らの品性と教養とを磨く学校
3. 毎日を充実させて、何事も自ら考え判断し、仲間と協働して、自ら創造と変化を引き起こすことができる学校

2 中期的目標

1 確かな学力の定着と学びの深化

(1) 新学習指導要領の確実な実施と確かな学力の育成のために授業改善を行う。(「」内は学校教育自己診断のアンケート設問事項。以下全て同様。)

ア 授業づくりチームを核に、授業見学週間や研究授業、授業アンケートを活用して授業改善に組織的に取り組む。

※ 生徒の「清水谷高校は学ぶ意欲を引き出す授業をしている」の肯定率をR7年度には85%以上にする(R2=86%, R3=78%, R4=78%)。

※ 生徒の授業アンケート全教員平均をR7年度まで3.40以上を維持する(R2 1回目①3.42、2回目②3.38、R3 ①3.46、②3.45、R4 ①3.48、②3.47)。

イ 1人1台端末やICTを活用した授業を推進し、反転授業など新たな授業形態も研究して主体的・対話的で深い学びの実現を進め生徒の学力の向上を図る。

※ 生徒の「清水谷高校はICT機器を効果的に活用している」の肯定率をR7年度までに85%以上にする(R2=76%, R3=76%, R4=74%)。

※ 生徒の「清水谷高校は1人1台端末を効果的に活用している」の肯定率をR7年度までに80%以上にする(R2=--%, R3=--%, R4=59%)。

ウ 新学習指導要領を踏まえた新カリキュラムの確認・見直しや、学年進行による新観点別授業評価を全教員が安定して実施できるようにする。

※ 教員の「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」をR7年度90%以上にする(R2=--%, R3=--%, R4=83%)。

(2) ウィズコロナ、アフターコロナ時代におけるグローバル社会に対応し、活躍できる人材を育成する。

ア 多様化・国際化する社会の中で、国際共通語としての英語コミュニケーション力を生徒に習得させるように、校内外での英語使用機会を増加させる。

※ 3年間途絶えていた本校主催の海外語学研修や、海外の学校や団体などを本校に招いて交流する機会を令和7年度までに年1回以上行うようにする。

2 非認知能力を育成する教育機会の充実と希望の進路の実現

(1) 人種、民族、宗教、国や性の違い、障がいの有無などにかかわらず、多様性を認め合い共生していくための意識を醸成する。

ア 人権・多様性を尊重する意識の醸成や、情報モラル、メディアリテラシーに関する知識の向上を図る。

※ 生徒の「清水谷高校は命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定率をR7年度まで90%以上で維持する(R2=93%, R3=97%, R4=92%)。

イ いじめの防止の徹底をする。

※ 生徒の「いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の肯定率をR7年度に95%以上にする(R2=91%, R3=95%, R4=93%)。

(2) 豊かな心や、社会性、自主性・自立性、やり抜く力などの非認知能力を育てる部活動や自治会活動の仕組み、環境を維持する。

ア バランスのとれた心身の成長や、社会性、自主性・自立性、やり抜く力などの非認知能力を育てる部活動や自治会活動ができる仕組み、環境を維持する。

※ 生徒の「清水谷高校は部活動が活発に行われている」の肯定率をR7年度まで90%以上を維持する(R2=95%, R3=96%, R4=96%)。

※ 生徒の「学習と部活動の両立を大切にしている」の肯定率をR7年度まで90%以上を維持する(R2=90%, R3=93%, R4=91%)。

※ 生徒の「清水谷高校は自治会活動が活発に行われている」の肯定率をR7年度まで90%以上を維持する(R2=89%, R3=87%, R4=94%)。

※ 生徒の「清水谷高校は生徒の自主性を重んじている」の肯定率をR7年度までに90%以上にする(R2=86%, R3=86%, R4=85%)。

3 キャリア教育の充実と希望の進路の実現

(1) 卒業後のみならず、10年後、20年後のその先を見通したキャリア教育の充実を図る。

ア 生徒に、大学進学等のその先を見通したキャリアや、社会での役割・使命を意識させる外部講師の講演などを行い、キャリア教育を充実させる。

※ 生徒の「清水谷高校では将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率をR7年度90%以上を維持する(R2=88%, R3=90%, R4=91%)。

(2) 生徒の希望の進路を実現させる。

ア 生徒が、入学から卒業まで全教科をしっかり学び、学力をつけて希望の進路を実現させるように、進路指導の充実をはかる。

※ R7年度までに国公立大学の進学を希望(3年次4月時点)した生徒の現役合格率40%以上をめざす(R2=35.9%, R3=30.9%, R4=29.2%)。

※ R7年度に国公立大学へ合格者数を卒業生の20%、50名以上にする(R2=15%, 43名、R3=14%, 38名、R4=14%, 40名)。

4 多様な主体との連携や協働の充実と府立学校の魅力づくり

(1) 地域・大学・企業、同窓会等の連携による探究活動の充実をめざす。

ア 総合的な探究の時間等で地域・大学・企業、同窓会などとの連携を模索し、生徒が答えのない問題に取り組み学力の三要素を磨く。

※ R7年度までに社会人による講演や大学等にいる学生の先輩講話、大学生や外国人留学生とのインターンシップ交流等の実施を模索する。

※ 生徒の「清水谷高校は学校外の方たちと交流する機会を設けている」の肯定率をR7年度までに80%以上にする(R2=60%, R3=60%, R4=56%)。

(2) 府立学校の魅力づくりの追求と効果的な情報発信による募集力の強化を行う。

ア 特色や魅力のある教育を行うとともに、効果的で積極的な情報発信や、学校説明会の開催時期と実施方法、実施内容の見直しを行い、志願者増加に繋げる。

※ R7年度までに本校の特色となる学年縦断行事の考案、実施や、地元の中学校との連携強化、ホームページ改訂や新たな広報で積極的な情報発信を行う。

※ 中学生の本校志願倍率をR7年度までに1.1倍以上に復活させる(R2=1.26, R3=1.38, R4=1.02)。

5 力と熱意を備えた教員の育成と学校組織づくりによる「働き方改革」の推進

(1) 教職員が、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導や生徒相談をできる資質を養成する。

ア 担任団、学年間の連携強化を図るとともに、校内外の教職員研修を通じて教職員がカウンセリングマインドを取り入れた生徒指導等をできる資質を養う。

※ 教員の「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」の肯定率をR7年度までに90%以上にする(R2=--%, R3=--%, R4=83%)。

※ 生徒の「担任の先生以外にも保健室や相談室等で気軽に相談できる先生がいる」の肯定率をR7年度までに85%以上にする(R2=--%, R3=--%, R4=77%)。

(2) 「働き方改革」の推進による教職員の長時間勤務の縮減をめざす。

ア 健康管理の観点から、分掌業務、会議時間、部活指導時間等の見直しなどで「働き方改革」を追求し、教職員の長時間勤務を縮減する。

※ 教職員1人当たりの月間超過勤務時間数をR7年度までにR4年度比で10%減らす(R2 27.07時間、R3 29.06時間、R4 33.06時間/4~12月平均)。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>1. 生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「清水谷高校は、学校外の方たちと交流する機会を設けている」の肯定率が前年度の56%から88%へと32ポイント上昇した。新型コロナが5類相当に指定替えされたことで、近隣幼稚園での家庭科実習実施や、グローバルインターンシップの米国人留学生1カ月間受け入れ、オーストラリアの高校と訪問・来訪の相互国際交流を開始したり、卒業生弁護士等外部社会人による講義を行ったことによると考えられる。 ・「清水谷高校は、ICT機器を効果的に活用している」の肯定率が前年度の74%から84%へと10ポイント上昇した。リーディングGIGAハイスクールに指定されて電子黒板等の設備が充実し、校内研修も繰り返し実施したことで、活用する教員が増加したことによると考えられる。 ・「清水谷高校は、1人1台端末を効果的に活用している」の肯定率が前年度の59%から79%へと20ポイント上昇した。リーディングGIGAハイスクールに指定されて電子黒板等の設備が充実し、校内研修も繰り返し実施したことで、活用する教員が増加したことによると考えられる。 <p>2. 保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「清水谷高校は、PTA活動が活発に行われている」の肯定率が前年度の68%から80%へと12ポイント上昇した。働き方改革に合わせて、委員会を排してボランティア化するなどのPTA業務の軽量化や組織改正を臨時PTA総会を開いて決定したことなどが評価されたものと考えられる。 ・「清水谷高校は家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている」の肯定率が前年度の72%から81%へ、「清水谷高校は、教育情報について提供の努力をしている」の肯定率が前年度の73%から82%へ、いずれも9ポイント上昇した。携帯メールの連絡網による随時の連絡や、校長ブログによるきめ細かい情報発信が好感されているという声が多い。 ・「清水谷高校の授業参観や学校行事に参加したことがある」の肯定率が前年度の48%から81%へ33ポイント上昇した。新型コロナが5類相当に指定替えされたことで、校内行事への参加が増えたことが要因と考えられる。 ・「清水谷高校は、ICT機器を効果的に活用している」の肯定率が前年度の61%から72%へと11ポイント上昇した。リーディングGIGAハイスクールに指定されて電子黒板等の設備が充実し、校内研修も繰り返し実施したことで、活用する教員が増加したことを校長ブログ等で情報発信したことが考えられる。 <p>3. 教職員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「清水谷高校は、進路に関して家庭への連絡や情報提供を適切に行っている」の肯定率が前年度の76%から86%へ、10ポイント上昇した。進路や奨学金等に関する連絡や情報発信をきめ細かく行ってきていることが考えられる。 ・「大学や中学校、地域の人たちとの交流・連携や国際交流などの活動を積極的に進めている」の肯定率が前年度の34%から86%へと52ポイント上昇した。新型コロナが5類相当に指定替えされたことで、近隣幼稚園での家庭科実習実施や、グローバルインターンシップの米国人留学生1カ月間受け入れ、オーストラリアの高校と訪問・来訪の相互国際交流を開始したり、卒業生弁護士等外部社会人による講義を行ったことによると考えられる。 ・「清水谷高校は、各分掌や学年間の連携・協力が円滑に行われている」の肯定率が前年度の38%から67%へ、29ポイント上昇した。改善はしているが、これまでが低すぎるものが考えられる。 ・「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」の肯定率が前年度の55%から64%へ、9ポイント上昇した。改善はしているが、未だ改善の余地が多いことが考えられる。 	<p>【第1回】令和5年6月30日 [委員からの質問意見など]</p> <p>(1) 授業見学について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板の使用状況はどうか。 ・教室が狭く感じる。机を移動するのも大変そうである。 ・実際に1年生の授業の様子を見ると、思ったよりセーラー服の生徒の割合が高いように感じた。 <p>(2) 令和4年度 学校経営計画及び学校評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観点別評価の定着度はどうか。 ・観点別評価の指標のようなものは教科ごとに打ち立てようとしているのか。 ・思考力や主体性は、就職してから今後必要とされるであろう。自分で発表したり表現したりする方が得意な生徒もしっかり評価されると考えると、今回の観点別評価は良いのかもしれない。しかし、変わっていく時期は保護者も不安に思うことが多い。例えば対外的なディベート大会等への参加も生徒の力になるのではないか <p>(3) 令和5年度 学校経営計画及び学校評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼い子と接することで情緒が安定することもあるので、幼稚園訪問はよい取り組みであると思う。 ・幼稚園訪問や国際交流等は、保護者として「公立でもこんなことしてくれるんだ」と感じたので、このあたりをもっと強みとしてアピールしてはどうか。大学進学へのサポートをもっと手厚くすると、さらに良いのではないかと。 ・最近では、中学校よりも塾への広報活動によるアプローチが重要かもしれない。 ・清水谷高校に特色がないことはないと思う。清水谷に行って良かったと思うことが多い。日々色々と清水谷高校に行かせて良かったと思うことが多かった。 ・子どもの出身中学校に清水谷に進学した生徒が過去にいなかったため、中学校にデータがないので、塾に頼って清水谷高校への進学を決めた。 ・まずは保護者が知って、オープンキャンパスに参加することも多い。オープンキャンパスでは特に、生徒による学校紹介が良かった。生徒の様子が見て取れるので、保護者にも中学生にも非常に良い。 ・色々と新しい取り組みをされていて、お礼を申し上げたい。 <p>(4) スクールポリシー案について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・難しい内容を分かりやすくすっきりまとめている。 ・子どもが親から巣立っても幸せに生きていってほしいというのが親の思いであるので、テストの点数だけではなくてこのスクールポリシーのように考えていただければ親としてはありがたい。 ・この案はとても良いと思います。大学受験だけではなくて、目標は将来何になりたいかということから逆算して課題を立てていくと講演で聞いたことがある。清水谷には大学入学を意識して入学している生徒が多いと思うが、大学入学のその先にあることも意識して作成しているのは良いと思う。 ・分かりやすくして良い。特に「失敗して学ぶ」というのが良い。 <p>【第2回】令和5年12月9日 [委員からの質問意見など]</p> <p>(1) 令和5年度 学校経営計画及び学校評価の進捗状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度末に改築した食堂の2期工事を清友会で2月に実施予定である。第2期工事では空調工事を予定しており、食堂の新たな活用方法も検討していただきたい。 ・清水谷セミナーの募集状況はどうか。 ・模試についてはどんな様子か。 ・1人1台端末は全教職員が使っているのか。生徒はついていけているのか。 ・観点別評価はとても大変そうだが現場はどうか。 ・中学校でも電子黒板を使っている授業がほとんどである。そのため高校でも積極的に活用しても、生徒は困惑しないと思われる。 ・来年度の募集定員が1クラス増えたようだが、なぜ清水谷が増えたのか。人気校であったり、倍率が高いことが影響しているのか。 ・毎年新しい取り組みをされていて素晴らしいと思う。 <p>【第3回】令和6年2月16日 [委員からの質問意見など]</p> <p>(1) 令和5年度 学校経営計画及び学校評価の結果(案) 及び令和6年度 学校経営計画及び学校評価(案)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革に関する教職員アンケートは実施していないのか。 ・「学ぶ意欲を引き出す授業をしている」と「自治活動が盛んである」のポイントがどちらも上がりきっていないのは理由があるのではないかと。 ・観点別評価はどうか。 ・世間では講師不足が叫ばれているが、清水谷ではどうか。 ・学校に来ると、生徒が挨拶してくれているので、非常に良い雰囲気である。 ・反転授業のメソッドとはどのようなものか。 ・外部講師を呼ぶのは、非常に良いことである。清友会でも、講師を務めてくれる人を探してみたい。 ・中学校でも講師探しは苦勞している。 ・校長先生のブログを楽しみにしている。コロナが去年の5月に五類になって、できなかったことができるようになってきている。失っていた「当たり前の日常」を維持してほしい。また、開かれた校長室であるのは良いと思う。後は卒業式を待つだけだが、入学させて良かったと思っている。 ・フリーアナウンサーの八木早希さんの講演を聞いてから、何か子どものスイッチが入った感じがしている。外の社会を見られる機会を多く作っていただいて、保護者の1人として感謝している。子どもは1人1人の内から興味が出てこない、教員から教えるばかりでは難しいのではないかと。先輩など実社会を知っている外部の方の話が生徒の良い刺激になる。自然に意欲の沸く素晴らしい機会であるので、これからも続けていってほしい。これが清水谷高校への特色につながっていくと思う。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R4年度値]	自己評価
1 確かな学力の定着と学びの深化	<p>(1) 新学習指導要領の確実な実施と授業改善 ア 授業づくりチームを核とした授業改善</p> <p>イ 1人1台端末やICTを活用した授業推進と生徒の学力の向上</p> <p>ウ 新カリキュラムの確認・見直し、新観点別授業評価の安定実施</p> <p>(2) グローバル社会に対応し、活躍できる人材の育成 ア 校外での英語使用機会の増加</p>	<p>(1) 新学習指導要領の確実な実施と確かな学力の育成のために授業改善を行う。 ア 授業づくりチームを核に授業見学週間や研究授業、授業アンケートを活用して授業改善に組織的に取り組む。</p> <p>イ 1人1台端末やICTを活用した授業を推進し、反転授業など新たな授業形態も研究して主体的・対話的で深い学びの実現を進め生徒の学力の向上を図る。</p> <p>ウ 新学習指導要領を踏まえた新カリキュラムの確認・見直しや、学年進行による新観点別授業評価を全教員が安定して実施できるようにする。</p> <p>(2) ウィズコロナ、アフターコロナ時代におけるグローバル社会に対応し、活躍できる人材の育成 ア 多様化・国際化する社会の中で、国際共通語としての英語コミュニケーション力を生徒に習得させるように、校外での英語使用機会を増加させる。</p>	<p>(1) ア・生徒の「清水谷高校は学ぶ意欲を引き出す授業をしている」の肯定率を80%以上にする[78%]。 ・生徒の授業アンケート全教員平均を3.40以上を維持する[3.47]。 イ・生徒の「清水谷高校はICT機器を効果的に活用している」の肯定率を80%以上にする[74%]。 ・生徒の「清水谷高校は1人1台端末を効果的に活用している」の肯定率を65%以上にする[59%]。 ウ・教員の「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」の肯定率を85%以上にする[83%]。 (2) ア・3年間途絶えていた本校主催の海外語学研修や、海外の学校や団体などを本校に招いて交流する機会を1回以上行うようにする。</p>	<p>(1) ア・生徒の「清水谷高校は学ぶ意欲を引き出す授業をしている」の肯定率は74%であった。(△) ・生徒の授業アンケート全教員平均は1回目①3.47、2回目②3.47で、2回とも3.47となり、3.40以上を高い水準で維持した。(◎)</p> <p>イ・生徒の「清水谷高校はICT機器を効果的に活用している」の肯定率は84%で前年比10ポイント向上した。(◎) ・生徒の「清水谷高校は1人1台端末を効果的に活用している」の肯定率は79%となり、前年比20ポイント向上した。(◎)</p> <p>ウ・教員の「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」の肯定率は86%で、前年比3ポイント向上した。(○)</p> <p>(2) ア・本校主催オーストラリア短期留学を27名参加で8月に行い、12月はオーストラリアから生徒10名を本校に1週間招いて交流した。また1月にオーストラリア国立少年合唱団のメンバー16名を本校に招き交流会を行った。加えて、6月には関西外国語大学の留学生を1ヶ月受入れ、タイ文部省の訪日団も受入れた。(◎)</p>
2 非認知能力を育成する教育機会の充実と希望の進路の実現	<p>(1) 多様性を認め合い共生していく意識の醸成 ア 人権・多様性の尊重意識の醸成や情報モラル等に関する知識の向上 イ いじめ防止の徹底</p> <p>(2) 非認知能力を育てる部活動や自治会活動の仕組み、環境を維持 ア 非認知能力を育てる部活動や自治会活動ができる仕組み、環境を維持</p>	<p>(1) 人種、民族、宗教、国や性の違い、障がいの有無などにかかわらず、多様性を認め合い共生していくための意識を醸成する。 ア 人権・多様性を尊重する意識の醸成や、情報モラル、メディアリテラシーに関する知識の向上を図る。 イ いじめの防止の徹底をする。</p> <p>(2) 豊かな心や、社会性、自主性・自立性、やり抜く力などの非認知能力を育てる部活動や自治会活動の仕組み、環境を維持する。 ア バランスのとれた心身の成長や、社会性、自主性・自立性、やり抜く力などの非認知能力を育てる部活動や自治会活動ができる仕組み、環境を維持する。</p>	<p>(1) ア・生徒の「清水谷高校は命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定率を90%以上で維持する[92%]。 イ・生徒の「いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の肯定率を94%以上にする[93%]。 (2) ア・生徒の「清水谷高校は部活動が活発に行われている」肯定率90%以上を維持する[96%]。 ・生徒の「学習と部活動の両立を大切にしている」肯定率90%以上を維持する[91%]。 ・生徒の「清水谷高校は自治会活動が活発に行われている」の肯定率を90%以上を維持する[94%]。 ・生徒の「清水谷高校は生徒の自主性を重んじている」の肯定率を90%以上にする[85%]。</p>	<p>(1) ア・生徒の「清水谷高校は命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定率は92%であった。(○) イ・生徒の「いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の肯定率は、昨年度と同じく93%で、目標の94%以上にならなかったものの、この数値は既に高い水準を維持していると判断する。(○) (2) ア・生徒の「清水谷高校は部活動が活発に行われている」肯定率は97%であった。(◎) ・生徒の「学習と部活動の両立を大切にしている」肯定率は90%だった。(○) ・生徒の「清水谷高校は自治会活動が活発に行われている」の肯定率は89%であった。(△) ・生徒の「清水谷高校は生徒の自主性を重んじている」の肯定率は83%であった。(△)</p>
3 キャリア教育の充実と希望の進路の実現	<p>(1) 20年後のその先を見通したキャリア教育の充実 ア 外部講師の講演等によるキャリア教育の充実</p> <p>(2) 希望の進路の実現</p>	<p>(1) 卒業後のみならず、10年後、20年後のその先を見通したキャリア教育の充実を図る。 ア 生徒に、大学進学等のその先を見通したキャリアや社会での役割・使命を意識させる外部講師の講演などを行い、キャリア教育を充実させる。 (2) 生徒の希望の進路を実現させる。 ア 生徒が、入学から卒業まで全教科をしっかりと学び、学力をつけて希望の進路を実現させるように、進路指導の充実をはかる。</p>	<p>(1) ア・生徒の「清水谷高校では将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率90%以上を維持する[91%]。 (2) ア・国公立大学へ進学を希望(3年次4月時点)した生徒の現役合格率40%以上をめざす[29%]。 ・国公立大学へ合格者数を卒業生の20%、50名以上にする[R4=14%, 40名]。</p>	<p>(1) ア・生徒の「清水谷高校では将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率は91%であった(○)。 (2) ア・国公立大学へ進学を希望(3年次4月時点)した生徒の現役合格率は34%だった。(△) ・国公立大学の合格者数は卒業生の18.4%、49名であった。(○：極めて高い目標を概ね達成)</p>

府立清水谷高等学校

<p>4 多様な主体との連携や協働の充実と府立学校の魅力</p>	<p>(1) 地域・大学・企業、同窓会等の連携による探究活動の充実 ア 地域・大学・企業、同窓会などとの連携を模索し、学力の三要素を磨く</p> <p>(2) 府立学校の魅力づくりの追求と効果的な情報発信による募集力の強化 ア 特色ある教育と効果的で積極的な情報発信で募集力強化再建</p>	<p>(1) 地域・大学・企業、同窓会等の連携による探究活動の充実をめざす。 ア 総合的な探究の時間等で地域・大学・企業、同窓会などとの連携を模索し、生徒が答えのない問題に取り組み学力の三要素を磨く。</p> <p>(2) 府立学校の魅力づくりの追求と効果的な情報発信による募集力の強化を行う。 ア 他と異なる特色や魅力のある教育を行うとともに、広報媒体の見直しをし、効果的で積極的な情報発信で募集力を強化、再建する。 ・学校説明会の開催時期と実施方法、実施内容の見直しを行い、志願者増加に繋げる。</p>	<p>(1) ア・社会人等による講演や大学等にいる学生の先輩講話、大学生や外国人留学生とのインターンシップ交流等の実施を模索する。 ・生徒の「清水谷高校は学校外の方たちと交流する機会を設けている」の肯定率を65%以上にする[56%]。</p> <p>(2) ア・特色となる学年縦断行事の考案、実施や、地元の中学校との連携強化、ホームページ改訂や新たな広報で積極的な情報発信を行う。 ・広報媒体を見直しを行う。 ・学校説明会の開催時期と実施方法・内容を見直す。 ・中学生の本校志願倍率を1.1倍以上に復活させる[1.02]。</p>	<p>(1) ア・11月に3年生に対して卒業生で弁護士の須藤隆二さんから先輩講話を行い、1月には2年生に対しフリーアナウンサーの八木早希さんのキャリア講演を行った。関西外国語大学の米国人留学生のグローバルインターンシップを6月に4週間交流実施した。6月は幼稚園訪問実習なども行った。(◎)</p> <p>・生徒の「清水谷高校は学校外の方たちと交流する機会を設けている」の肯定率は88%で32ポイント向上した。(◎)</p> <p>(2) ア・毎月祭を外部会場で2学年合同の実施。地元の中学校向けに3月に清水谷ツアーを実施。ホームページはスマホ対応に完全に切り替え。校長ブログを4～12月で前年の284件比1.8倍の505件記載する等で積極的な情報発信した。(○)</p> <p>・広報媒体はJComTV等を積極的に利用した。(○)</p> <p>・学校説明会は夏休み前1回を含め計4回行い1229組2653名が来校。8月のクラブ体験会(2日で205名)を加えると昨年度(1039組2078名)比1.4倍の来校者があった。(◎)</p> <p>・中学生の本校志願者は1月16日時点で昨年度(294名)比1.33倍(392名)で、募集1クラス増の定員320人に対しても1.23倍になっている(前年同時期は定員280人に対し1.05倍)。(◎)最終志願倍率は1.21倍(386名/320名)だった。</p>
<p>5 力と熱意を備えた教員の育成と学校組織づくりによる「働き方改革」の推進</p>	<p>(1) カウンセリングマインドによる生徒指導、相談の資質養成 ア カウンセリングマインドによる生徒指導、相談の資質の養成</p> <p>(2) 「働き方改革」の推進による教職員の長時間勤務の縮減 ア 健康管理の観点から「働き方改革」を追求し、教職員の長時間勤務を縮減</p>	<p>(1) 教職員が、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導や生徒相談をできる資質を養成する。 ア 担任団の生徒に係る即時情報共有や円滑な相互連携ができる座席配置等を検討実施する。 ・学年縦断の連携に資する行事を検討実施する。 ・校内外の教職員研修を通じて、教職員がカウンセリングマインドを取り入れた生徒指導や生徒相談に応えられる資質を養成する。</p> <p>(2) 「働き方改革」の推進による教職員の長時間勤務の縮減をめざす。 ア 健康管理の観点から、分掌業務、会議時間、部活指導時間等を見直しなどで「働き方改革」を追求し、教職員の長時間勤務を縮減する。</p>	<p>(1) ア・担任団の連携強化になる座席配置の検討実施。 ・学年相互連携強化策の実施。 ・生徒の「担任の先生以外にも保健室や相談室等で気軽に相談できる先生がいる」の肯定率を80%以上にする[77%]。 ・教員の「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」の肯定率85%以上に[83%]する。</p> <p>(2) ア・教職員1人当たりの月間超過勤務時間数をR4年度比で5%減らす[R4年度33.06時間/4～12月平均]。</p>	<p>(1) ア・長年の懸案であった職員室の座席配置を教科単位から「働き方改革」のし易い担任団単位へ変更実施を決定、3月に実施(◎)。</p> <p>・学年相互連携強化策は将来構想委員会で検討し、担任団ごとの座席とすることで前進する。(○)</p> <p>・生徒の「担任の先生以外にも保健室や相談室等で気軽に相談できる先生がいる」の肯定率は74%だった。(△)</p> <p>・教員の「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」の肯定率は前年同値の83%だった。(△)</p> <p>(2) ア・教職員1人当たりの月間超過勤務時間数は27.45時間/4～12月平均で-17%の大幅削減になった。(◎)</p>